

## □■ 2013年 年頭のご挨拶 ■□

(一社) 情報通信設備協会 東海地方本部  
地方本部長 井上新一

皆さん、明けましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当協会の事業運営にご理解とご協力を賜り有難う御座いました。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

一昨年は、未曾有の『東日本大震災』が発生しました。東日本大地震で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

また、情報通信インフラの復旧に向け、電気通信事業者等による懸命な復旧作業が行われ、当協会では会員と一丸となってお客様の情報通信端末設備の復旧・復興に取組み・支援し、早期復興を願っています。

この世の中の状況は、回復基調にあった世界経済の暗転、円の高止まり、大震災以降発生する可能性大と言われる火山噴火等の大自然災害、新エネルギー、人口減少等、情報通信を取り巻く環境は、まさに狂瀾怒濤の状況を迎えております。このような経営環境の乱高下は、今後暫く続くものと思われま

す。会員各社様におかれましては、このような環境に対応するために、頑強な経営体質を確立し、これらの変化を迎え撃つための策を“常に備えよ”という言葉のごとく備えておかなければなりません。

今年は、巳年で「辰巳天井」の言葉通り、「荒れる巳年」と思っています。今年こそは、平穏な年であることを祈るものです。

さて、私たちを取り巻く情報通信業界の動向では、一昨年の7月に地上放送のデジタル化完了、ICTの利活用等の一層の推進を図るなか、固定通信網ではNGN（次世代ネットワーク）、移動体通信網ではLTE（4Gへの移行）、WiMAXなどの新しいインフラへ、既存サービスのインフラをより効率的に運用し利活用によるシフトが、各会員のお客様にどしどし提案され、顧客満足度の向上とお客様の信頼を形成されてゆくような年になることと思います。

ITを中心に「所有から利用へ」顧客のニーズはシフトしており、それに応えるべく通信事業者、ハードウェアベンダー、システムインテグレーター、ソフトウェアベンダー、海外情報系企業はこぞってSaaS（サース）、Cloud（クラウド）サービスへ急速に移行しつつあり、情報通信業界のパラダイムシフト元年ともいわれており、固定・移動融合の構造改革の時を迎え、かなりの変化が今後予想されます。

益々激しい技術変化は当分の間続くことが予想され、「教育の充実」が今後も不可欠となってまいります。インフラを中心とした技術として、当協会の研修で実施している、L2、L3スイッチング設定を、実機を用いて行うコース「情報ネットワークプランナー（マスター）」で、インターネットまで範囲を広めた固定、移動の技術を併せ持った冗長コースを新設し、より充実した教育を実施しております。

また、LAN認定制度が発足し3年目を迎え、より会員に利活用されることを願っております。

そして、恒例となっております総務省の情報通信月間行事に参加し、今年も5月には講演会の開催を予定しておりますので、是非、足を運んで頂きますようお願い申し上げます。

各会員企業が継続・発展し、従業員の皆さんが明るく元気になって、今後益々熾烈になる他業界との競争を乗り切っていくため、通信インフラで培ったノウハウを十二分に生かし、顧客へ固定通信網、移動通信網、PCの利活用提案を、「知恵の結集と連携」で行うことが重要かと思

います。皆さんと手を取り合い協働・共生し魅力ある協会にしてゆくため 皆さんのご協力と知恵をお貸し頂くことをお願いし、協会活動を通じて社会の貢献に寄与することを念願し、新年の挨拶とさせていただきます。

おわり